

第2表（小）

学校名 清瀬市立清瀬第七小学校

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各教科

- 言語活動の充実や多様な学習形態による児童主体の授業を展開するとともに、問題解決的な学習を計画的に位置付け、学びに向かう力や思考力、判断力、表現力等の育成を図る。
- ペア学習やグループ学習など共に学ぶ学習形態を工夫し、児童が自ら考え、互いの思いや考えを進んで表現し合うことにより、主体的に学び互いに高め合う態度を育てる。
- 学力調査等の結果分析を踏まえて授業改善推進プランを作成し、指導の改善を図るとともに個別の課題を分析し、算数科における習熟度別指導等の指導に生かす。
- 図書館資料やICT機器を活用した授業を行い情報活用能力と論理的思考力を育成する。
- 外国語では、話す・聞く・読む・書く指導を、ALTを活用して充実させる。
- 新体力テストの結果をもとに授業改善を図り、児童の体力の向上を促す。

イ 道徳科

- 自他の生命を尊重し、命を尊ぶ心を育成するために、全学年で生命尊重の価値項目を重点化して扱うとともに、主体的に考え議論する道徳の授業を推進する。
- 教育活動全体を通して道徳的価値の理解を進め、道徳教育を推進するために、道徳科の授業を要として教科等との関連を明確にし、全体計画に基づき、道徳的実践の充実を図る。
- 道徳授業地区公開講座を実施し、道徳的諸価値を家庭や地域社会と共有し、協働して健全な児童の育成に関わるようにする。

ウ 外国語活動

- 諸外国の言語や文化への理解を深め、英語でのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を養うために、多様な資料や教科書、地域人材を活用した系統的な指導を行う。

エ 総合的な学習の時間

- 指導計画に基づき、発達段階に合ったテーマを設定し、各教科等で培った資質・能力を活用した学習を実施する。学校図書館、ICT機器、市立図書館、地域人材の協力、調べる学習コンクールへの参加について計画的・系統的に実施し、情報活用能力の育成を図る。
- 各単元では、タブレット端末等のICT機器、図書館資料の活用を充実させるとともに、プログラミング的思考を育てる学習過程を位置付け、論理的思考力の育成を図る。
- 国立ハンセン病資料館、赤ちゃんのチカラプロジェクト、松竹梅+プロジェクト、地域の人材や施設、事業を活用した体験的・問題解決的学習を充実する。

オ 特別活動

- 学級活動では、学級での課題について話し合い、解決していく中で、コミュニケーション能力を高めるとともに、自治的能力の育成を図る。
- 児童会活動、クラブ活動では、協働してやり遂げる経験を通して主体的に取り組み、課題を解決していく中で、「なりたい自分」を目指して努力する意欲を育成する。
- 縦割り班活動では、異学年との交流を通して、相手を思いやる力を育成する。
- 振り返りを行い、キャリアパスポートとして積み重ねることで、自己有用感、達成感を強くもてるようにするとともに、「なりたい自分」を目指す意欲付けを行う。